

30amE-142S

薬剤師、行政、大学が協力して行える地域での子育て支援活動 — 兵庫県播磨地区でのママサポ会の活動からみる薬剤師の地域活動 —

○原田 祐希¹, 坂口 知子², 中川 素子³, 野口 栄⁴, 波多江 崇¹, 水田 恵美⁵
(¹神戸薬大, ²じけまち調剤薬局, ³中川調剤薬局, ⁴アイリス薬局, ⁵播磨町薬局)

【目的】ママサポとは、平成23年度より兵庫県が行っている新ひょうご子ども未来プランの一環として、兵庫県薬剤師会が行っているまちなか相談薬局ママサポ事業のことである。播磨薬剤師会でのママサポ事業は、母親が子育て中に抱える不安や悩みを解消することを目的に行政と協力して薬剤師による出前講座を行っており、今年で2年目を迎える。今年度から、神戸薬科大学も運営に参加し、薬剤師、行政、大学がともに協力して運営を行った。そこで、薬剤師、行政、大学が協力して行った地域の子育て支援活動について報告する。【方法】平成23年度に2回及び24年度に5回、子育て支援センターや保育園で出前講座を開催した。合計参加人数は約140名であった。ママサポ会の流れとしては、まず、薬剤師がお薬の基本の話、お薬手帳の説明を行い、学生が大学側で作成した資料の説明を行った。次に、参加者を少人数のグループに分け、そこに薬剤師と学生が1名ずつ入る形でグループワークを行った。最後に、薬剤師の調剤業務について説明を行った後、アンケートを実施した。会の終了後、参加スタッフ全員でふりかえりを行った。その後、大学側でアンケートの集計解析を行って、今後の会の充実をはかった。【結果・考察】薬や病気に関して不安や悩みを抱えている母親は多く、このような子育て支援活動を薬剤師が行うことで、参加者の方々には非常に好評であった。また、地域での薬剤師の存在を認知してもらい良いきっかけになったと思われる。さらに、薬剤師、行政、大学が協力して行うことによって相互理解が深まった。今後は、アンケートの解析の結果などをもとにより一層充実したママサポ会となるよう改善策を検討する予定である。